

■誌上発表10

1 研究主題 伝える形・文字・言葉

2 提案者 江戸川区立葛西第二中学校 教諭 大平 真作

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

造形の基礎基本は、模倣から始まっている。何を模倣するのか、その対象を選ぶのは、その人そのものとも言える。それはその人の感性であり、それまでの経験の多寡であり、様々な要素がある中での選択となる。その模倣を出発点とした造形の中に、自分自身のメッセージを明確なものとする文字・ことばが加えられる。形だけで自分自身の思いが成立するか、文字・ことばを必要とするのか。作品として見る人に伝えるものをどう表現していくのか。形だけでなくことばの重みを考えさせる。

4 学習の目標

- (1) 水張りパネルを使って制作することで、本格的なしっかりした作品を作ろうという意欲を持たせる。
- (2) 題材・素材・表現方法を自由にし、自分の世界の表現の仕方を十分工夫する。
- (3) 文字・ことばによる表現を取り入れることで、作品への思いを強くする。
- (4) 美術の授業を苦手とする生徒にも、自由な発想、工夫によって様々な表現が出来ることを学ばせる。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① ワークシートへの取り組みから丁寧に行っている。
 - ② 意欲的な制作態度。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 自分の思いを表現できている。
 - ② 苦手なものを克服する工夫をしている。
- (3) 創造的な技能
 - ① 素材を生かした表現ができている。
 - ② 意図に合った表現の工夫ができている。
- (4) 鑑賞の能力
 - ① 制作の中で美しいものを求めている。
 - ② 他の人の作品の良さを見つけることができる。

6 学習計画（全10時間）

(1) 用具・準備

- ① 材料 水張りパネル制作（B3版パネル、ケント紙、水張りテープ） 水彩絵の具 紙粘土 色紙 折り紙 色鉛筆 など
- ② 道具 （水張りパネル）はけ ステープラ はさみ のり など

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	水張りパネル作り 自分自身の作品のパネルを作る。 二人で組になって助け合う。 制作する作品への思いを募らせる。	作業の進まない生徒には手助けする。 本格的な作品作りの導入とする。

二	2	ワークシートを使って構想を練る。 資料を集める。 下書きを始める。	自分の思いを確かめさせる。
三	6	制作活動 さまざまに工夫をして、自分のイメージを表現する。	生徒の考えを中心におき、素材の扱いなど工夫については、アドバイスを適時していく。
四	1	クラスのみんなの作品を鑑賞する。	他の作品の良いところを探す。 何をメッセージとしているのかを読み取る。

生徒作品

